

自治協 ニュース

第0209
発行者
八本松住民
自治協議会
R03.02.20

曾場ヶ城山に治山ダム5基 完成

難工事を克服 山地災害から住民を守る

令和2年度
林野庁直轄事業

1月28日(木)、林野庁山地災害復旧対策室は、八本松住民自治協議会の要請に応え、曾場ヶ城山北斜面に進められている「八本松地区民有林直轄治山事業」(治山ダム等の設置工事)の進捗状況について現場説明を行った。



④ 溪流の治山ダム(ケ-第1)
溝迫交差点上流

長さ33m 高さ8.5m



⑦ 溪流の治山ダム(ケ-第2)
バイパス工事現場上流

長さ63m 高さ10.7m L字型



⑨ 溪流の治山ダム(ケ-12)
記念池東側上流

長さ33.5m 高さ7m



⑨ 溪流の治山ダム(ケ-15)
記念池西側上流

長さ29.5m 高さ6.5m ダム建設中

この事業は、森林の維持造成を通じて山地災害から住民を守るために行われる治山事業で、平成30年の西日本豪雨で土石流等が発生した曾場ヶ城山北斜面にある10カ所の溪流を対象に、昨年度から国の直轄事業として進められている。今年度から本格的に5カ所の溪流で治山ダムの設置工事が開始され、難工事にもかかわらず今年度末(3月)までに全て完成する見込み。特に、溝迫交差点に土石流を直撃させた④溪流の治山ダム

(ケ-第1)は、下流域に集まった巨石を整理したうえで設置。また、大量の土砂で、バイパス工事現場を直撃し溝迫交差点を襲った⑦溪流の治山ダム(ケ-第2)は、雨季の多量の出水を克服したうえでこの地域最大規模(長さ63m、高さ10.7m)のダムを設置。更には、宗吉団地内に土石流を流下させた⑩溪流の治山ダム(ケ-10)は、固い岩盤に悩まされながらこの地域第二の大型ダム(長さ40m、高さ9m)が建設される等、工事を請け負った(株)SEIWAと株



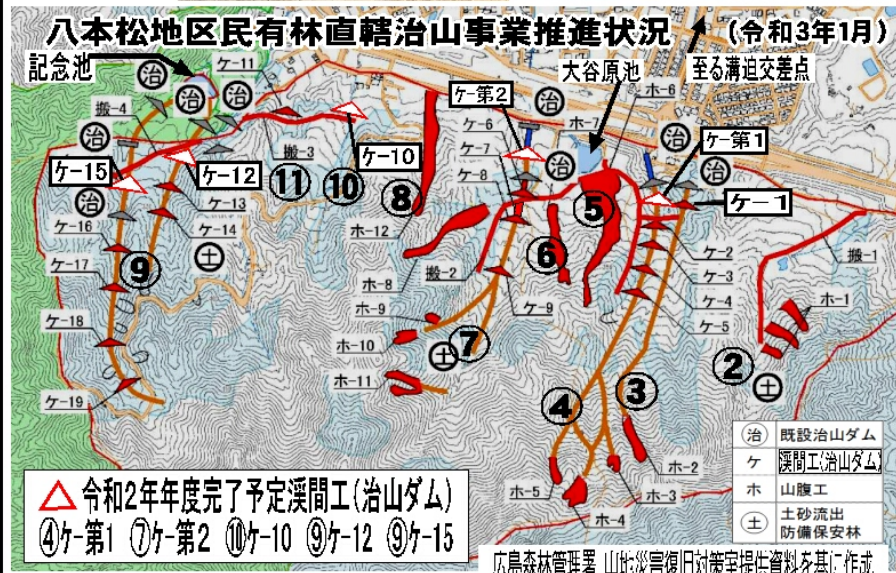
⑩ 溪流の治山ダム(ケ-10)
宗吉団地上流

長さ40m 高さ9m(正面資材の向こうは谷) ダム建設中

本建設工業(株)の現場担当者の方から工事の状況を聞いた。今後の計画について、林野庁山地災害復旧対策室長の津脇さんは、「来年度は、西条バイパスに土石流を直撃させた③

下流域に治山ダムが設置されることとなる。その後、更に上流部に複数の治山ダムや山腹工(土留工や植栽による山腹斜面の安定化工法)が行われ、下流域への土砂流出が軽減され、住民の皆さんの生活環境の安全化に寄与することとなる。

来年度、③溪流の治山ダムが完成すれば、国道などの施設等に被害を及ぼしたほとんどの溪流の最



広島森林管理署 山地災害復旧対策室提供資料を基に作成

地域福祉、求められる「自助」と「互助」の結びつき

令和2年度あったか笑顔のまちづくり講演会

市・市社会福祉協議会・市民生児童協議会共催

八本松中央自治会

地域の福祉活動を報告

コロナ禍でも住民の方とのつながりを

1月22日（金）、「令和2年度あったか笑顔のまちづくり講演会（八本松・志和会場）」（福祉講演会）の収録が東広島市消防局のホールで行われ、八本松中央自治会（会長 常光聡）が取り組む福祉活動が報告された。

この講演会は毎年、市、市社会福祉協議会及び市民生児童委員協議会が共催し、多くの福祉関係者の

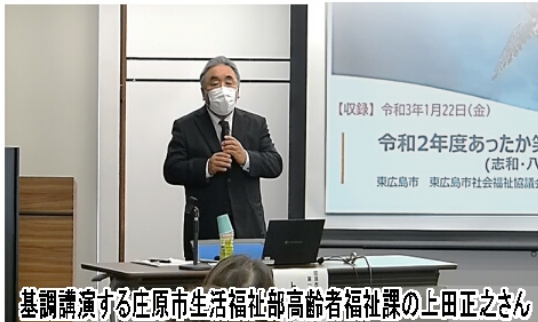


活動報告する八本松中央自治会の常光さんと高山さん

参加を得て行われてきた。しかし、今年度はコロナ禍のため一般の方の参加ができず、講演会の模様を収めたテレビオを開係団体等に配布するための収録会に代替え行われた。

この収録会では、最初に、庄原市生活福祉部高齢者福祉課の上田正之さんが「地域共生社会の実現に向けて」と題し基調講演。その中で上田さんは、「地域共生社会の実現に地域の役割は重要。特に、高齢者等当事者

の自助（出来ることは自分で、できないことは助けてと言え行動）と地域の福祉団体の互助（組織ができる範囲の支援活動）は密接な関係にあり、双方のパラソスをとりながら人と人との繋がりを深めていく必要がある」と強調した。



基調講演する庄原市生活福祉部高齢者福祉課の上田正之さん

いる。特に、高齢者の方には宅配サービスや簡単な身の周りの生活支援等を行う他、コロナ禍の中でも住民の方を元気づける活動を行っている。また、こうした活動をおし、住民の皆さんから安心して声をかけていただけるよう努めている」と中央地区の福祉活動について報告した。

上田さんは、中央地区の発表を聴いて、「コロナ禍にあっても住民の皆さんへどうやって声をかけるか今一番求められている。その中で八本松中央は様々な工夫で素晴らしい互助活動を実践されており、人と人との繋がりが、もっと広がり深いものになってくるだろう」と高く評価した。なお、福祉実践活

動の報告は、八本松中央の他、西志和まちづくり自治協議会（前生活福祉部長 牛田晴雄氏）から「お互いさまネットの取組み」も紹介されている。

“自助”なくして“互助”なし！

・当事者の暮らしかたで、周り（地域等）の関わり方が決まっていく

“互助”なくして“自助”なし！

・周り（地域等）の働きかけ方で、当事者の気持ちもかわっていく

* 助けたり助けられたりの関係は、普段の暮らしの中での、多くの人つながりの中から育っていきます。

- ・挨拶
- ・地域行事
- ・サロン等の集まり場
- ・軽スポーツ
- ・趣味の会
- ・ご近所での立ち話
- ・散歩
- ・畑や畔端での会話
- ・支え合い活動、地縁組織活動、その他

* お互いがある程度遠慮なく話ができ、ちょっとした変化に気づき合う関係づくり
(上田さんの基調講演資料より)